

Ⅲ 殺菌剤・殺虫剤

	農 薬 名	適用病虫害名	使用方法	使用時期	使用回数	備 考 (適用作物名)
農 薬 使用基準 (殺菌剤)	カシマン液剤	炭疽病	1平方メートル当り 0.5リットル散布	発病初期	8回以内	ヘントグラス
		紅色雪腐病	1平方メートル当り 1リットル散布	根雪前		
		紅色雪腐病	1平方メートル当り 0.25リットル散布			
	キノドー水和剤80	雪腐病	1平方メートル当り 0.5～1リットル散布 1平方メートル当り 0.2～0.25リットル散布	根雪前	3回以内	
	グランサー水和剤	雪腐小粒菌核病	1平方メートル当り 0.5～1リットル散布	根雪前	5回以内	ヘントグラス
		葉腐病(ラージパッチ)	1平方メートル当り 0.2リットル散布	発病初期		日本芝
			1平方メートル当り 1リットル散布			
	クリーングラス水和剤	葉腐病(ブラウンパッチ)	1平方メートル当り 1～2リットル散布	発病初期	8回以内	ヘントグラス
	コンバード水和剤	赤焼病	1平方メートル当り 1リットル散布	発病初期	3回以内	ヘントグラス
	シャルマツ水和剤	葉腐病(ブラウンパッチ)	1平方メートル当り 1～2リットル散布	発病初期	4回以内	ヘントグラス
	セレンターフ粒剤	葉腐病(ラージパッチ)	散布	発病初期	6回以内	日本芝
	ダコグリーン	葉腐病(ブラウンパッチ)	1平方メートル当り 1～2リットル散布	発病初期	8回以内	
		ヘルミトスポリウム葉枯病				
	ディンクroppフロアブル	紅色雪腐病	1平方メートル当り 0.5リットル散布 1平方メートル当り 0.25リットル散布	根雪前	8回以内	ヘントグラス
		雪腐小粒菌核病	1平方メートル当り 0.25リットル散布 1平方メートル当り 1リットル散布			
			葉腐病(ブラウンパッチ)	1平方メートル当り 0.5～1リットル散布		
	テンホープ水和剤	ヘルミトスポリウム葉枯病	1平方メートル当り 1リットル散布	発病初期	4回以内	ヘントグラス
		葉腐病(ブラウンパッチ)				
	ドウグリン水和剤	雪腐小粒菌核病	1平方メートル当り 0.2～0.25リットル散布	根雪前	3回以内	ヘントグラス
	トップティ水和剤	炭疽病	1平方メートル当り 0.5～1リットル散布	発病初期	8回以内	ヘントグラス
バイコラル水和剤	ダラスポット病	1平方メートル当り 1リットル散布	発病初期	6回以内	ヘントグラス	
バイレトン乳剤	さび病	1平方メートル当り 200～300ミリリットル 散布	発病初期	5回以内		
バンパッチ水和剤	ダラスポット病	1平方メートル当り 1リットル散布	発病初期	4回以内	ヘントグラス	
	炭疽病				日本芝	
	葉腐病(ラージパッチ)					

	農 薬 名	適用病虫害名	使用方法	使用時期	使用回数	備 考 (適用作物名)
農 薬 使用基準 (殺菌剤)	プラウザー水和剤	赤焼病	1平方メートル当たり 1リットル散布	発病初期	3回以内	ベントグラス
	ヘリテージ顆粒水和剤	葉腐病(ラージパッチ)	1平方メートルあたり 200～500ミリリットル 散布	発病初期	8回以内	日本芝
	ベンレートT水和剤20	葉腐病(フ라운パッチ)	1平方メートル当たり 1～2リットル散布	発病初期	6回以内	ベントグラス
	ベンレート水和剤	葉腐病(フ라운パッチ)	1平方メートル当たり 2リットル散布	発病初期	6回以内	ベントグラス
	ホーマイ水和剤	葉腐病(フ라운パッチ)	1平方メートルあたり 1～2リットル散布	発病初期	8回以内	ベントグラス
	モノクタジンフロアブル	炭疽病 雪腐小粒菌核病 紅色雪腐病	1平方メートル当たり 0.5リットル散布	根雪前	8回以内	ベントグラス
			1平方メートル当たり 1リットル散布			
			1平方メートル当たり 0.25リットル散布			
	ロブドー水和剤	葉腐病(フ라운パッチ)	1平方メートル当たり 1リットル散布	発病初期	5回以内	ベントグラス
			1平方メートル当たり 1リットル散布			
1平方メートルあたり 1リットル散布						
ロブラールフロアブル	葉腐病(フ라운パッチ)	1平方メートル当たり 1リットル散布	発病初期	8回以内	ベントグラス	
ロブラール水和剤	ダラススポット病	1平方メートルあたり 1リットル散布	発病初期	8回以内	ベントグラス	
	葉腐病(ラージパッチ)				日本芝	
農 薬 使用基準 (殺虫剤)	イールダーSG	スジキリトウ	1平方メートル当たり 300ミリリットル散布	発生初期	3回以内	
	オルトラン水和剤	アカフツツリガ	1平方メートルあたり 0.5～1リットル散布	発生初期	5回以内	
		タマナヤガ	1平方メートルあたり 0.25～2リットル散布			
		スジキリトウ	1平方メートルあたり 1～2リットル散布			
	オルトラン粒剤	タマナヤガ	全面散布	発生初期	5回以内	
		シバツトガ				
		スジキリトウ				
	ガードワン水和剤	スジキリトウ	1平方メートル当たり 300ミリリットル散布	発生初期	3回以内	
	カルホス乳剤	タマナヤガ幼虫	1平方メートルあたり 1～2リットル散布	発生初期	6回以内	
		シバツトガ				
サニーフィールド乳剤	スジキリトウ	1平方メートル当たり 0.3リットル散布	発生初期	3回以内		
	シバツトガ					
スカウトフロアブル	シバツトガ	1平方メートル当たり 200～300ミリリットル 散布	発生初期	5回以内		
	スジキリトウ					

	農薬名	適用病害虫名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
農薬 使用基準 (殺虫剤)	スミチオン乳剤	コガネムシ類幼虫	1平方メートルあたり 3リットル散布	発生初期	6回以内	
		シバツガ	1平方メートルあたり			
		スジキリトウ	0.3～2リットル散布			
	ゼンターリ顆粒水和剤	スジキリトウ	1平方メートル当り 300ミリリットル散布	発生初期	6回以内	
	ダースバン乳剤40	コガネムシ類幼虫	1平方メートルあたり 3リットル散布	発生初期	5回以内	
		シバツガ	1平方メートルあたり	発生初期	5回以内	
		スジキリトウ	1～2リットル散布			
	ダイアジノンSLゾル	スジキリトウ	1平方メートル当り 0.3リットル散布	発生初期	4回以内	
	ダイアジノン乳剤40	コガネムシ類幼虫	1平方メートル当り 3リットル散布	発生初期	4回以内	
		スジキリトウ	1平方メートル当り 0.3～1リットル散布			
	ダイアジノン粒剤5	シバツガ	散布	発生初期	4回以内	
		スジキリトウ				
	ディプテレックス乳剤	スジキリトウ	1平方メートル当り 1～1.5リットル灌注	発生初期	6回以内	
	デルフィン顆粒水和剤	シバツガ	1平方メートル当り 300ミリリットル散布	発生初期	6回以内	
スジキリトウ						
トクチオン乳剤	シバツガ	1平方メートル当り 0.5～1リットル散布	発生初期	3回以内		
バシレックス水和剤	シバツガ	1平方メートル当り 300ミリリットル散布	発生初期	6回以内		
マルチガード水和剤	スジキリトウ	1平方メートル当り 0.3リットル散布	発生初期	3回以内		
リラークDF	スジキリトウ	1平方メートル当り 0.3～1リットル散布	発生初期	5回以内		

・補完する農薬

	農薬名	適用病害虫名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
農薬 使用基準 (殺虫剤)	コンフューザー-G	スジキリトウ	対象地帯の樹木等に巻き付け固定する。	成虫発生前～終期		
		シバツガ				
	バイオセーフ	タマナヤガ	散布	発生初期	-	
	バイオトピア	コガネムシ類幼虫	1平方メートル当り 0.5～2リットル散布	発生初期	-	

使用方法

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
葉 腐 病 （ブラウン パッチ） 〔草種：ベン トグラス〕	発生初期	1. クリーングラス水和剤、ダコグリーン、テンホープ水和剤、バシパッチ水和剤、ロブドール水和剤の500倍液、シャルマット水和剤の600倍液、ロブラールフロアブルの700倍液、ディンクロップフロアブル、ベンレートT水和剤、ロブラール水和剤の1,000倍液のいずれかを1㎡当り10 散布する。 2. ホーマイ水和剤1,000倍液、又はベンレート水和剤の2,000倍液を1㎡当り20 散布する。	1. 標高が低いほど発生が多くなる。 2. 平均気温が20℃付近になり、適度な降雨があると発生し始める。 3. 防除効果が高く、発生を確認してから の散布で十分対応できるので、予防散布 は極力控える。 4. クリーングラス及びシャルマットは夏 期高温乾燥時の連続散布で洋芝の茎葉 に黄化を生ずることがあるので注意す る。 5. ダコグリーンは夏期高温時の散布で茎 葉が退色又は黄化することがあるので 注意する。 6. ベンレートT、ダコグリーン及びホー マイは魚類に毒性が強いため注意する。 7. クリーングラス、シャルマット、テン ホープ及びバシパッチは蚕に毒性が強 いので注意する。
炭 疽 病 〔草種：ベント グラス〕	発生初期	1. バシパッチ水和剤の500倍液、 又はトップティ水和剤1,000倍 液を1㎡当り10 散布する。 2. カシマン液剤の500倍液又はモ ノクタジンフロアブル1,000倍 液を1㎡当り0.50 散布する。	1. 5～10月にかけて発生し、ベントグリー ンでは発生期間が最も長い病害の一つ である。 2. 湿潤時には比較的大型の円形に近いパ ッチとなるが、乾燥期には小型のパッチ が散在する。 3. 降雨は本病の発生、被害を助長する。 4. 芽数の減少が顕著になる発生中期以降 では薬剤防除をしても回復が遅れるた め、発生初期の防除を心がける。 5. 追肥を行うと回復は早まる。
赤 焼 病 〔草種：ベント グラス〕	発生初期	1. コンバード水和剤、又はブラウ ザー水和剤の500倍液を1㎡当 り10 散布する。	1. 高温期でかつ土壌水分が多い場合に発 生しやすいのでグリーンへの排水（停滞水 の除去等）に努める。 2. 発生後の進展が早いので、発生初期を 見逃さず、直ちに防除を行う。 3. ブラウザーは、ブラウンパッチ、葉枯 病に対しても効果が高い。 4. ブラウザーは蚕に毒性があるため注意 する。 5. 薬剤耐性菌が出現する可能性があるた め、年間使用回数を両剤合わせて3回以 内とする。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ダラスポット病 〔草種：ペン トグラス〕	発 生 初 期	1. バシパッチ水和剤の 500 倍液、 バイコラール水和剤の 1,000 倍 液、ロブラール水和剤の 1,000 ～1,500 倍液のいずれかを 1 m ² 当り 10 散布する。	1. 6 月～9 月にかけて発生し、初発期はブ ラウンパッチよりやや早い、その後の 発生時期はほぼ重なる。 2. 窒素の欠乏により発生が助長される傾 向がある。 3. 薬剤耐性菌の出現回避のため、同一系 統薬剤の連用は避ける。
ヘルミント スポリウム 葉 枯 病 〔草種：ペン トグラス〕	発 生 期	1. ダコグリーン水和剤、又はテン ホープ水和剤の 500 倍液を 1 m ² 当り 10 散布する。	1. ベントグリーンでの葉枯病は、ブラウ ンパッチとの同時防除に心がける。 2. 薬害、魚毒、蚕毒については、ブラウ ンパッチの注意事項を参照する。
葉 腐 病 （ラージパ ッチ） 〔草種： 日本芝〕	春 期 4 / 下～5 / 上の発生直 前 秋 期 9 / 中～の発 生直前 （但し標高 によってか なり差があ る）	1. グランサー水和剤の 1,000 倍液 を 1 m ² 当り 10 散布する。 2. ヘリテージ顆粒水和剤 4,000 倍 液、又はグランサー水和剤 500 倍液を 1 m ² 当り 0.50 散布する。 3. グランサー水和剤 200 倍液を 1 m ² 当り 0.20 散布する。 4. セレンターフ粒剤を 1 m ² 当り 10g あて散布する。	1. やや低温性の病気であり、標高の高い 地帯では夏期でも発生する場合がある。 2. 防除時期は春期と秋期の 2 回、病勢の 動き始める前に散布すると効果が高い。 また、活動中の病斑帯の外縁が褐色を呈 するので、この病斑帯の色で防除効果が 確認できる。 3. コースの造成、改造等の芝の張替え時 に、保菌芝を持ち込むことがあるので十 分注意する。この場合、特に小さな病斑 を見逃さず、発生を確認次第直ちに防除 する。 4. グランサーは低温時（根雪前散布）以 外では洋芝（ベントグラスなど）の葉に 黄化が生ずる恐れがあるため、付近にあ る場合はかからないように注意する。 5. ヘリテージはりんごの一部品種（シナ ノレッド、あかね、旭、きざし、ガラ等） に薬害を起こすので、かからないように 注意する。 6. 少量散布の場合、多頭口ノズルを用い、 均一に散布する。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
さび病 〔芝〕	発 生 期	1. バイレトン乳剤の2,000倍液を1㎡当り0.2～0.3ℓ 散布する。	1. ケンタッキーブルーグラスではメリオンが特に罹病しやすい。 2. 防除効果は、散布時期よりむしろ刈高に左右され、刈高が低い程散布量は少なくてもよい。 3. 多発の恐れがある場合のみ、発生箇所スポット散布で対応する。
雪腐小粒菌核病 〔草種:ベントグラス〕	根 雪 前	1. キノンドー水和剤80、又はドウグリンの80～100倍液を1㎡当り0.2～0.25ℓ 散布する。キノンドー水和剤80は200～400倍液を1㎡当り0.5～1ℓ 散布してもよい。 2. グランサー水和剤の750倍液を1㎡当り1ℓ 散布する。 3. ディンクroppフロアブル、モノクタジンフロアブルの300倍液を1㎡当り1ℓ、又は125倍液を1㎡当り0.25ℓ 散布する。	1. 散布時の天候に十分注意し、晴天時をねらって散布する。 2. 本県で主に発生するのは、雪腐小粒菌核病（褐色及び黒色）であり、一部紅色雪腐病がある。 3. グランサーは紅色雪腐病に効果が劣るので、発生種を確認してから使用する。 4. 有機銅水和剤は魚毒が強いので注意する。 5. 有機銅水和剤は希釈倍率が異なっても、1㎡当りの農薬量は同量（2.5g/㎡）とする。この場合、少量散布の方が効果が高かつ安定する。 6. 少量散布の場合、多頭口ノズルを用い、均一に散布する。
紅色雪腐病 〔草種:ベントグラス〕	根 雪 前	1. カシマン液剤の300倍液を1㎡当り1ℓ 又は125倍液を1㎡当り0.25ℓ 散布する。 2. ディンクroppフロアブル、モノクタジンフロアブルの250倍液を1㎡当り0.5ℓ 又はディンクroppフロアブルの125倍液を1㎡当り0.25ℓ 散布する。	
スジキリヨトウ	幼虫発生初期（9月上旬～中旬）	1. ダイアジノン乳剤40の1,000倍液を1㎡当り0.3～1ℓ、又はオルトラン水和剤の1,000倍液を1㎡当り1ℓ 散布する。 2. ディプテレックス乳剤の1,000倍液を1㎡当り1～1.5ℓ 散布する。 3. スカウトフロアブルの1,500倍液を1㎡当り0.2～0.3ℓ 散布する。 4. スミチオン乳剤の1,000倍液又はダーズパン乳剤40の1,500倍液を1㎡当り1ℓ 散布する。	1. 分散前の若令幼虫は、芝の葉先を白く食害するので、これを目当てに周辺を防除する。 2. 県内の標準的な成虫発生盛期は6月上中旬、7月下旬～8月上旬、9月上旬～下旬の年3回。 3. 産卵盛期にラフの刈り込みを行うと孵化抑制効果がある。 4. ダイアジノン、ディプテレックスはスタムと10日以内の近接散布は避ける。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
スジキリヨトウ	幼虫発生初期（9月上旬～中旬）	5. ガードワン水和剤の 4,000 倍液、イールダーSG、サニーフィールド乳剤、マルチガード水和剤、リラークDFの 2,000 倍液、又はゼンターリ顆粒水和剤、ダイアジノンSLゾル、デルフィン顆粒水和剤の 1,000 倍液のいずれかを 1 m ² 当り 0.3ℓ 散布する。 6. ダイアジノン粒剤5を 1 m ² 当り 6g 又はオルトラン粒剤を 1 m ² 当り 10g 散布する。	5. イールダーSG、スカウトフロアブル、サニーフィールド、マルチガードは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 6. ガードワン、ゼンターリ、デルフィン、リラークDFは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 7. ダーズバンは魚毒に注意する。また、野芝・高麗芝では春・秋期散布で先枯れや黄化症状が出ることもある。
	成虫発生前から終期	[補完する農薬] 1. コンフューザーGを芝面積 10a 当り 20～40m（20cm チューブ換算で 100～200 本）、樹木や植込みを利用して設置する。	1. 交信かく乱剤であり、スジキリヨトウ、シバツトガ以外の害虫には効果がない。 2. 急傾斜地、強風地帯等では、本剤の濃度を維持できないので使用を避ける。
シバツトガ	幼虫ふ化期～幼虫発生期（8月上旬中旬、9月中下旬）	1. ダイアジノン粒剤5を 1 m ² 当り 6g、又はオルトラン粒剤を 1 m ² 当り 10g 散布する。 2. スカウトフロアブルの 1,500 倍液を 1 m ² 当り 0.2ℓ 散布する。 3. スミチオン乳剤の 1,000 倍液、ダーズバン乳剤 40 の 1,500 倍液、カルホス乳剤、又はオルトラン水和剤の 1,000 倍液を 1 m ² 当り 1ℓ 散布する。 4. サニーフィールド乳剤の 1,000～2,000 倍液、バシレックス水和剤の 500 倍液、デルフィン顆粒水和剤の 1,000 倍液のいずれかを 1 m ² 当り 0.3ℓ 散布する。 5. トクチオン乳剤の 1,000 倍液を 1 m ² 当り 0.5ℓ 散布する。	1. 野芝よりも洋芝での被害が多く、また標高の低い所で多発することが多い。 2. 県内の標準的な成虫発生盛期は 6 月上中旬、7 月下旬～8 月上旬、8 月下旬～9 月中旬頃の年 3 回。防除適期は発生最盛期から約 2 週間後の幼虫ふ化期であるが、薬剤の効果は一般に高いので被害を認めたらすぐに防除する。 3. ダイアジノン、スミチオンはスタムと 10 日以内の近接散布は避ける。 4. スカウトフロアブル、サニーフィールドは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 5. ダーズバンは魚毒に注意する。また、野芝、高麗芝では春・秋期散布で先枯れや黄化症状が出ることもある。 6. デルフィン及びバシレックスはBT剤（生菌）で老齢幼虫には効果が低いので若齢期に散布する。蚕毒に注意する（特別指導事項参照）。 7. トクチオンは、トマト、メロン等にかかると特異的に臭いが残るので、他作物にかからないように注意する。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
シバツトガ	成虫発生前 から終期	[補完する農薬] 1. コンフューザーGを芝面積10a当り20～40m（20cmチューブ換算で100～200本）、樹木や植込みを利用して設置する。	1. 交信攪乱剤であり、スジキリヨトウ、シバツトガ以外の害虫には効果がない。 2. 急傾斜地、強風地帯等では、本剤の濃度を維持できないので使用を避ける。
タマナヤガ	幼虫発生初期 (6月頃、8月中旬～9月上旬)	1. オルトラン粒剤を1㎡当り10g散布する。 2. オルトラン水和剤、又はカルホス乳剤の1,000倍液を1㎡当り10散布する。 [補完する農薬] 1. バイオセーフ25万頭を20の水に希釈して1㎡に散布する。	1. グリーンでの被害が大きいため初期発生の把握に努める。そこ以外では防除の必要はない。 2. バイオセーフは昆虫寄生線虫を有効成分とする生物農薬で、曇天時又は日没後に散布する。また、低温下（15℃以下）では線虫の活動が鈍り効果が低下するので使用を避ける。
アカフツヅリガ	幼虫発生初期 (8月中旬～9月上旬)	1. オルトラン水和剤の1,000倍液を1㎡当り0.50散布する。	1. グリーンでの被害が大きいため初期発生の把握に努める。そこ以外では防除の必要はない。 2. 発生が比較的少ない場合には巢穴毎に、スポット散布する。
コガネムシ類幼虫	幼虫ふ化期～幼虫発生期 (8月下～9月上旬) 成虫発生期 (ウスチャコガネ5月中下旬、ヒメアシナガコガネ6月下～7月上旬、その他7月下～8月上旬)	1. ダイアジノン乳剤40の800倍液、スミチオン乳剤40、又はダズバン乳剤40の1,000倍液のいずれかを1㎡当り30散布する。 [補完する農薬] 1. バイオトピアの125,000～25万頭を20の水に希釈して1㎡に散布する。	1. 県内の主要種はマメコガネ、ウスチャコガネ、スジコガネ、ヒメアシナガコガネで、付近に成虫の餌植物があると発生が多くなる。 2. 成虫の発生盛期はウスチャコガネが5月中旬頃、他の大部分が7月中～8月上旬頃で、その1カ月後頃に幼虫が出揃う。 3. ダイアジノン、スミチオンはスタムと10日以内の近接散布は避ける。 4. ダズバンは魚毒に注意する。また、野芝、高麗芝では春・秋期散布で先枯れや黄化症状が出ることもある。 5. バイオトピアは昆虫寄生線虫を有効成分とする生物農薬で、曇天時又は日没後に散布する。また、低温下（15℃以下）では線虫の活動が鈍り効果が低下するので使用を避ける。

総括注意

1. 散布に際しては天候に十分注意し、原則として降雨が予想される場合は散布を控える。
2. ベンレートT、ダコグリーン、ホーマイ、有機銅及びダーズバンは魚類に対して毒性が強いため、河川、湖沼、養魚池等に飛散流入する恐れのある所では使用せず、これら以外の場所でも広範囲に使用しない。また、残液、洗浄液等は適正に処理する。
3. クリーングラス、シャルマット、テンホープ、バシパッチ、プラウザーは、殺菌剤でも蚕に毒性があるため付近に桑園がある場所では使用しない。
4. 薬剤耐性菌の出現回避のため、同一薬剤、同一系統薬剤の連用は避け、他系統薬剤とのローテーション使用を原則とする。

IV 除草剤

	農薬名	適用雑草名	使用方法	使用時期	使用回数	備考 (適用作物名)
農薬 使用基準 (除草剤)	MCP液剤	クローバー	茎葉全面散布	雑草生育期	3回以内	日本芝
		畑地一年生広葉雑草				
	アググリーン粒剤	ヒメクダ	散布	芝生育期 (雑草生育期)	3回以内	日本芝
		ハマスケ				
	イデトップフロアブル	一年生雑草	全面土壌散布	芝生育期 (雑草発生前但し、秋期スズメノカタビラは3薬期まで)	2回以内	日本芝
	ウェイアップフロアブル	畑地一年生雑草 (キク科を除く)	全面土壌散布	雑草発生前	3回以内	日本芝
	エイゲン水和剤	畑地一年生イネ科雑草	散布	芝生育期 (雑草発生前)	4回以内 (但し、除草剤としては3回以内)	西洋芝 (ブルーグラス、ベントグラス)、 日本芝
	エイゲン粒剤	畑地一年生イネ科雑草	散布	芝生育期 (雑草発生前)	3回以内	西洋芝(ブルーグラス、ベントグラス)、 日本芝(こうらいしば)
	カーブ水和剤	畑地一年生雑草	所定量の水に希釈し、噴霧機等で全面均一散布する。	雑草発生前	2回以内	芝(こうらいしば、ひめこうらいしば)
	キャンペリコ液剤	スズメノカタビラ	刈り込み後雑草茎葉散布	芝生育期 (春～夏期)(スズメノカタビラ生育期)	3回以内	日本芝(こうらいしば)、 西洋芝(ベントグラス、ブルーグラス)
	クサブロック	一年生イネ科雑草	全面土壌散布	春期雑草発生前 (芝生育期)	2回以内	日本芝、西洋芝(ベントグラス、ブルーグラス、パーミュタグラス)
		一年生雑草 (キク科を除く)				
	グラッチェ顆粒水和剤	ハマスケ	散布	雑草生育初期(3薬期まで)(芝生育期)	3回以内	西洋芝(ベントグラス、ブルーグラス)、 日本芝
		ヒメクダ				
一年生及び多年生広葉雑草						
一年生広葉雑草						
グラッチェ顆粒水和剤	一年生広葉雑草	散布	雑草発生前(芝生育期)	3回以内	西洋芝(ベントグラス、ブルーグラス)	
	多年生広葉雑草		雑草生育初期(3薬期まで)(芝生育期)			
サーベルDF	一年生及び多年生広葉雑草	雑草茎葉散布	秋期～冬期(雑草発生前始期～生育初期)	1回	日本芝	

	農薬名	適用雑草名	使用方法	使用時期	使用回数	備考 (適用作物名)
農薬 使用基準 (除草剤)	ザイトロンアミン液剤	クローバー、チトメクサ等の 多年生広葉雑草	雑草茎葉散布	雑草生育 期	3回以内	日本芝
		一年生広葉雑草				
	シバゲン水和剤	多年生広葉雑草	散布	秋期～冬 期(雑草生 育期)	3回以内	日本芝
		一年生雑草				
		スキナ		春期～夏 期芝生育 期(雑草生 育期)		
		多年生広葉雑草				
		一年生雑草				
		ヒメクダ				
	ハマスゲ					
	シバタイト	多年生広葉雑草	雑草茎葉散布	芝生育期 (雑草生育 初期)	3回以内	芝(ベントグ ラス、ブルーグ ラス、日本芝)
一年生広葉雑草						
ヒメクダ						
ハマスゲ						
ディクトラン乳剤	一年生雑草	散布	雑草発生 前	2回以内	日本芝	
	一年生イネ科雑草		春期雑草 発生前			
テュパサン	畑地一年生雑草	全面土壌散布	植付(は種) 後(雑草発 芽前～発 芽期) 生育期(雑 草発芽前 ～発芽期)	3回以内	日本芝(こう らいしば)	
ハイメドウ水和剤	一年生イネ科雑草	全面土壌散布	雑草発生 前	2回以内	日本芝	
バナフィン顆粒水和剤	畑地一年生イネ科雑草	全面土壌散布	雑草発生 前	2回以内	日本芝、西 洋芝(ブルーグ ラス、ベントグ ラス)	
プロハービー水和剤	一年生雑草	散布	芝生育期 (雑草発生 前)	2回以内	日本芝	

使用方法

草種	対象雑草	防除時期及び処理法	除草剤名	1㎡当たり 使用量（水量）	注意事項
日本芝	一年生イネ科雑草	雑草発生前 全面土壌散布	ハイメドウ水和剤 〔カフェンストロール〕 50%	0.2～0.4g (0.2～0.3ℓ)	<ol style="list-style-type: none"> 乾燥ぎみの天候や雑草発生前後散布では効果が劣る。 養成中の芝草、生育の劣った芝草に対しては使用しない（薬害）。 所定の水に溶かして噴霧器で均一に散布する。 サッチを除去してから散布する。 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候を見はからってから散布する。 適度な刈り込みは芝の雑草に対する競争力を増すので、十分に行うこと。 雑草発生前処理剤は雑草発生前散布では効果が劣るので、適期を逃がさないようにする。 雑草生育期処理剤は雑草が小さい内に処理した方が効果大きい。又、雑草発生の多い場所へのスポット散布を行うことで、剤の使用量を節減できる。 ベントグリーンに発生するスズメノカタビラは、リン酸肥料の施用を控えることで発生量を抑制できる。 イデトップフロアブルの秋期処理はスズメノカタビラには3葉期まで有効である。
	一年生雑草	芝生育期 雑草発生前 全面土壌散布	イデトップフロアブル 〔トリアジフラム〕 30%	0.075mℓ (秋期0.1mℓ) (0.2～0.3ℓ)	
		芝生育期 雑草発生前 散布	プロハービィ水和剤 〔ジチオピル 32%〕 ハロスルフロンメチル 16%	春期0.1～0.2g 秋期0.15～0.2g (0.2～0.3ℓ)	
		雑草発生前 散布	ディクトラン乳剤 (ジチオピル 32%)	一年生イネ科雑草 (春期雑草発生前) 0.075～0.15mℓ その他 0.15～0.3mℓ (0.2～0.3ℓ)	
コウライシバ ヒメコウライシバ	雑草発芽前 全面均一散布	カーブ水和剤 〔プロピザミド 50%〕	0.4～0.6g (0.2～0.3ℓ)		
コウライシバ	芝生育期 雑草発芽前～発芽期 植付（は種）後 雑草発芽前～発芽期 全面土壌散布	テュパサン水和剤 (シデュロン 50%)	芝生育期 1.2～2.0g 芝植付（は種）後 1.2～1.5g (0.2～0.3ℓ)		
日本芝	一年生雑草 (キク科を除く)	雑草発生前 全面土壌散布	ウエイアップフロアブル 〔ペンディメタリン〕 45%	0.4～0.9g (0.2～0.3ℓ)	
日本芝	一年生広葉雑草 クローバ	雑草生育期 雑草茎葉散布	MCP液剤 (MCP 50%)	0.5～1.0mℓ (0.1～0.2ℓ)	<ol style="list-style-type: none"> 多年生雑草が多い場合、多めの使用量が効果が高い。

草種	対象雑草	防除時期及び処理法	除草剤名	1㎡当たり 使用量（水量）	注意事項
	一年生広葉雑草 クローバ、 チドメグサ 等の多年生 広葉雑草	雑草生育期 雑草茎葉散布	ザイトロンアミン液剤 〔トリクロピル 44%〕	0.2～0.6ml (0.15～0.2ℓ)	2. 粒剤は均一に散布し、 散布後十分に散水する。 3. MCPPはブルーグラス にも使用できる。 4. クサブロックはバミュー ダグラスにも使用で きる。
	一年生雑草 多年生広葉 雑草 ハマスゲ ヒメクグ スギナ	雑草生育期 散布	シバゲン水和剤 〔フラザスルフロ ン 10%〕	春期～夏期（雑草生 育期） 一年生雑草、多年 生広葉雑草、ヒメ クグ 0.025～0.05g ハマスゲ 0.05～0.1g 秋期～冬期（雑草生 育期） 一年生雑草 0.025～0.05g 多年生広葉雑草、 スギナ 0.05～0.075g (0.15～0.2ℓ)	5. ザイトロアミンは広葉 のかん木類に葉害を起 こすのでかからぬよう にする。 6. サーベルDFはイネ科 雑草には効果が劣るの で、イネ科雑草が多い 場合は有効剤との体系 処理をする。 7. シバゲンは芝萌芽前 の多量散布は控える（葉 害）。 8. シバゲンはタンポポ、 イヌフグリ、ツユクサ などには効果が落ちる のでこれらが多い場合 は有効剤と組合せる。 9. シバゲンの秋期～冬 期処理はスギナに有効 である。
	一年生及び 多年生広葉 雑草	秋期～冬期 雑草発生始期～ 生育初期 雑草茎葉散布	サーベルDF水和剤 〔メトスルフロ ンメ チル 60%〕	0.002～0.004g (0.15～0.2ℓ)	10. グラッチェは、ヒメク グ、ハマスゲの多い所 では多目の薬量とし、 その他の場所は0.05g 以下でよい。 11. その他は上記剤の各項 に同じ。
コライ ンバ ベ ント・ ブル ー グ ラス	一年生イネ 科雑草	芝生育期 雑草発生前 散布	エイゲン粒剤 〔ピリブチカル ブ 3.5%〕	15～20g	
日 本 芝 ベ ン ト・ フ ル ー グ ラス			エイゲン水和剤 〔ピリブチカル ブ 47%〕	0.75～1.5g (0.25ℓ、日本芝は 0.2～0.25ℓ)	
		雑草発生前 全面土壌散布	バナフィン 顆粒水和剤 (バスロジン 58%)	日本芝 0.4～0.7g ブルー・ベント 0.5～ 0.7g (0.25～0.3ℓ)	

草種	対象雑草	防除時期及び処理法	除草剤名	1㎡当たり 使用量（水量）	注意事項
日本芝 バミューダ、 ブルー、 ベントグラス	一年生雑草 （キク科を 除く） 一年生イネ 科雑草	春期・秋期雑草 発生前 （芝生育期） 全面土壌散布	クサブロック水和剤 〔プロジアミン 63%〕	一年生イネ科雑草 0.08～0.1g 一年生雑草（キク科除 く） 秋期 0.12～0.16g 春期 0.12～0.24g （0.25～0.3ℓ）	
日本芝	一年生及び 多年生広葉 雑草 ハマスゲ ヒメクグ	芝生育期 雑草生育期 散布	アグリーン水和剤 〔ピラゾスルフロ ンエチル 5%〕	一年生及び多年生広 葉雑草、ハマスゲ 0.3～0.4g ヒメクグ 0.2～0.3g （0.15～0.3ℓ）	
ベント ブルー グラス	一年生及び 多年生広葉 雑草 ハマスゲ ヒメクグ	芝生育期 雑草生育初期 （3葉期まで） 日本芝は雑草発 生前 雑草茎葉散布	シバタイトフロアブル 〔イマゾスルフロ ン 10%〕 グラツェ顆粒水和剤 〔エトキシスルフロ ン 60%〕	0.5～1.0ml （0.2～0.3ℓ） 一年生及び多年生広 葉雑草 0.03～0.06g ハマスゲ、ヒメクグ 0.045 ～0.075g 日本芝一年生雑草の 雑草発生前は 0.015 ～0.03g （0.2～0.3ℓ）	
コウライ バ フルー グラス ベント グラス	スズメノカ タバタ	芝生育期 （春～夏期）ス ズメノカタビラ 生育期 刈り込み後雑草 茎葉散布 本剤は刈取り後 の傷口より侵入 するため、确实 にスズメノカタ ビラに多くの傷 口をつけるよう に刈取りし、刈 取り直後に散布 する。	キャンペリコ液剤 〔 <i>Xantomonas campestris</i> pv. <i>poae</i> 2×10 ¹¹ cfu/ml〕	0.2～0.4ml （0.2ℓ）	1. 本剤はバクテリアの一 種で、スズメノカタビ ラのみ寄生し、傷口 より侵入し、導管の中 を移動しながら増殖 し、導管を目詰まりさ せて植物体を枯死させ る。 2. 散布後低温だと菌の増 殖が劣るため散布後 1 ヵ月間の平均気温が 17～18℃以上になる時 期を散布の早限とす る。また散布後低温が 続くと予想される場合 は散布しない。 3. 原液は-18℃以下で冷 凍保存する。融解させ

草種	対象雑草	防除時期及び処理法	除草剤名	1㎡当たり 使用量（水量）	注意事項
					<p>て放置すると菌は死滅するため、調製後は速やかに使用するとともに再冷凍して使用しない。</p> <p>4. 殺菌剤、殺虫剤との近接散布にあたっては、7日以上の間隔をおく。</p>

V 植物成長調整剤

	農薬名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考 (適用作物名)
農薬 使用基準 (植物成長 調整剤)	ビオロックフロアブル	草丈の伸長抑制による刈込軽減	茎葉散布	生育期	6回以内	日本芝、 西洋芝 (ブルーグラス)

使用方法

使用目的	薬剤名	使用方法	使用上の留意点
草丈の伸 長抑制に よる刈り 込軽減 〔草種:ブル ーグラス、 日本芝〕	ビオロックフロアブル 〔プロヘキサジオンカル シウム塩 25%〕	芝生育期に㎡当たり0.04 ～0.08mlを0.2ℓに溶 かして散布する。	1. 散布むらがあると芝生の草丈にムラが生じるので、必ず均一散布する。 2. 降雨が予想される場合は使用を避ける。 3. 散布直後の刈り込みは効果が劣るので行わない。 4. 芝生が高温・低温・多雨・旱魃や踏圧・すり切れ等でストレス状態にあるときは使用を避ける。 5. 効果が切れた場合は、一旦刈り込んだ後に散布する。 6. 周辺の作物・樹木等にかからないように十分注意して散布する。